ひとりひとりが大切にされる市政へ

子育てしやすい名古屋を

- 学校給食は無料にし、中学校給食は全員制に転換する。
- 小中学校で少人数学級の拡大。市民の納得しない学校統廃合には反対。
- 国の保育士配置基準を上回る市独自の基準をつくり、必要な正規保育士を増員する。

ジェンダー平等の推進

- 痴漢・性暴力、ハラスメントの根絶。
- 全ての学校でジェンダーフリー制服を導入。
- 実効性ある LGBTQ 差別禁止条例の制定。

気候危機ストップ

- 省エネリフォーム支援制度を創設。
- 再生可能エネルギーの普及。

コロナ対策の強化

- 無料 PCR 検査の拡充。
- 保健所・保健センター職員の大幅増員。

若者・学生の支援

- 月額最大３万円の奨学金返済支援制度をつくる。
- 「公契約条例」を制定し、市の公共事業や委託事業で働く人や、市の非正規職員の時給を 1500 円以上に。

住みやすい名東区へ

- 名東図書館の大幅縮小方針を中止に。
- 厚生院特養の存続を。

市民の家計を助ける

- 水道基本料金を１年無料に。
- 敬老パスの回数制限の撤廃。
- 高すぎる国民健康保険料、介護保険料の引き下げ。

財源はあります！

◇ 無駄・浪費型大型開発の中止・見直し
◇ 金持ち優遇の市民税減税の中止
◇ 政令指定都市で２番目に豊かな名古屋市の財政力の活用

反戦平和 100 年つらぬく党の躍進で 岸田内閣の大軍拡・増税ストップ！

いま岸田内閣が進めている敵基地攻撃能力保有と大軍拡は、「専守防衛」という歴代自民党政権が掲げてきた原則すらかなぐり捨てるものです。自衛隊が米軍と一体になって海外での戦争にのりだす「戦争国家」づくりを進めようというものです。日本共産党は昨年、党創立 100 周年を迎えました。どんな迫害にも屈せず、反戦平和をつらぬいた党です。日本共産党の躍進で、岸田政権の「戦争国家」づくりにきっぱり NO の審判を下しましょう。

名東区民新聞　2023 年号外　日本共産党の見解を紹介します。発行　日本共産党名東区委員会 名東区名東本通 5-43 ファイブヒルズ 2F ☎ 052-704-1928

2023 年 4 月
名古屋市議選

日本共産党

党名東区ジェンダー平等委員会責任者

鈴木あやこ

すべての人が
生きやすい
社会を

26 歳

1997 年 1 月 名古屋生まれ。
名古屋学芸大学デザイン学科卒業。民間の福祉施設に介護士として勤務。2022 年 2 月より党愛知県委員会の専従職員に。現在、党名東区ジェンダー平等委員会責任者。日本民主青年同盟愛知県委員。趣味は写真。藤が丘在住。

名古屋市会議員
さいとう愛子

あやこさんにとっては、会う方々がほとんど人生の先輩たちです。みなさんから励まされ、要望を聞き、今、ほんとうにキラキラしています。みずみずしい感性で市政を変えていってほしい。多様性の時代にふさわしい、若くて頼もしいあやこさんをぜひ市会に送ってください！

名東区のみなさん、はじめまして

政治に希望が持てず、絶望していた

1月に26歳になりました。実は、私は長いあいだ政治に関心が持てませんでした。自分の生活と政治が関係のあるものだと知らなかったからです。そんな時に、港区の入館施設でスリランカ人のウィシュマ・サンダマリさんが職員からひどい虐待を受けて亡くなってしまった事件や、国会議員によるLGBTQの人々への差別発言などを見て、生まれて初めて社会に対して怒りを感じました。日本はいい国だとばかり思っていたけれど、こんなふうに人権が侵害されるようなことが起こっていると知って絶望していたのが、2021年のことです。

そんな中、社会はひどいことがたくさん起こっているとある友人に嘆いていたら、「嫌なことばかりに目を向けてないで、もっと幸せに生きていきなよ」というようなことを呆れたように言われてしまいました。すごくモヤモヤしたものの、その時は何も言い返せませんでした。

共産党の姿に希望をもらう

そんな矢先に衆院選があり、共産党の池内さおりさんの演説動画がSNSでたまたま目に飛び込んできました。「毎日より良く生きていきたいと願っている。それはただ一人、私がよく生きれればいいんじゃない。みなさんが幸せであって初めて、この社会は私の居場所になります」という池内さんの言葉を聞いて、涙が出ました。この人は私の気持ちを代弁してくれていると思ったんです。

確かに、自分はある程度健康で、住む家もあり、食べるものにも困っていません。きっとこれからも幸せに生きていけるだろうと思います。でも、自分が幸せだからと言って、その日を生き延びることも大変な人や、大きな苦しみを抱えている人々のことをどうでもいいとはやっぱり思えない。見て見ぬふりをして黙っているよりも、おかしいことにはおかしいと声を上げる方が自分にとってずっと幸せなことなのだと、その演説を聞いて確信になりました。

誰一人とりこぼされない社会に変えたい

そして、昨年の1月に共産党に入党し、生きづらい社会を少しでも変えたいと党の職員として活動してきました。そんな中、さいとう愛子市議の後継者として要請があり、悩みました。しかし、若者の声を政治に届けるには若い世代が政治の場に立つことが大切だと聞き、それなら今求められていることを精一杯頑張りたいと思い、市政に挑戦することを決意しました。

この間、名東区のいろんな方とお話しして実感していることがあります。それは、若者も高齢者も、あらゆる世代の人々が生きづらさを抱えているということです。どんな境遇でも、いくつになっても、尊厳を持ち安心して生きていく権利が、すべての人にあるはずです。私は、この街で暮らしているすべての人が生きやすい名古屋市にしたいです。

さいとう愛子市議は、誰よりも市民の声に耳を傾け、市民と共に市政を動かしてきた人です。この大切な議席を失うわけにはいきません。今度は私が、みなさんの声を届けます。

鈴木あやこ